

こどもの病気対策法¹³²

ーポリオー

大分大学客員教授 是松聖悟

「ポリオ」って昔の病気と勘違いしていませんか？確かに1960年代前半まで、毎年何千人もの人が死亡するか、手足が麻痺する「小児まひ」にかかっていた。 「小児まひ」の後遺症をお持ちの方々は少なからずおられます。

今でも「治療薬のないポリオ」が激減したのは、緊急輸入して接種した「生ワクチン」のおかげでした。これにより1980年の1人を最後として日本でポリオの発生はありません。一方、「生ワクチン」であるため、数百万人に1人「ポリオワクチン」によってポリオを発症してしまう子どもが注目され、2012年に日本では「生ワクチン」から「不活化ワクチン」への変更がなされました。3種混合ワクチンに混ぜて4種混合ワクチンとして乳幼児に定期接種されています。

「不活化ワクチン」ではポリオになりません。しかし、

専門家は「生ワクチン」ほどの効果の持続は期待できないことを予知し危惧していました。案の定、最近、小学生の抗体価が低下し、ポリオにかかりやすい状況になっていくことが明らかになりました。

今でも中国北京での発生や、アジアの国々での流行があるため、日本小児科学会は、同じく抗体価が低下する百日咳とともに、小学校入学前年にポリオの予防接種を推奨しています。ただし、この世代への4種混合ワクチンは認可されていないので、3種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンを別々に任意接種する必要があります。津久見市の子どもは、これまで多くの任意接種ワクチンを市の公費助成で接種できていた背景がありますので、せめて就学前の3種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンの各1回だけは、有料であっても接種を検討ください。

ポリオの5つのポイント

- ・ かつては毎年何千人もの人が死亡するか、後遺症を残す「小児まひ」にかかっていた。
- ・ 生ワクチンにて発生はなくなったが、まれに生じる副反応が注目され、不活化ワクチンに変更された。
- ・ 不活化ワクチンは効果が持続せず、小学生で抗体価が低下することが判明した。
- ・ 今もポリオの治療薬はない。
- ・ 有料にはなるが、小学校入学前年に、不活化ワクチンの追加接種を推奨する。

